様式第２号の１－②【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の１－①を用いること。

| | |
|---|---|
| 学校名 | 熊本電子ビジネス専門学校 |
| 設置者名 | 学校法人未来創造学園 |

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

| 課程名 | 学科名 | 夜間・通信制の場合 | 実務経験のある教員等による授業科目の単位数 | 省令で定める基準単位数 | 配置困難 |
|---|---|---|---|---|---|
| 工業専門課程 | IT エンジニア科ネットワークエンジニアコース | 夜・通信 | 65 単位 | 7 単位 | |
| | IT エンジニア科スマートフォンアプリコース | 夜・通信 | 65 単位 | 7 単位 | |
| | デジタルクリエイター科ゲームプログラマコース | 夜・通信 | 49 単位 | 7 単位 | |
| | デジタルクリエイター科 CG クリエイターコース | 夜・通信 | 63 単位 | 7 単位 | |
| | IT ビジネス科 WEB デザイナーコース | 夜・通信 | 52 単位 | 7 単位 | |
| | IT ビジネス科ネットショップコース | 夜・通信 | 48 単位 | 7 単位 | |
| 商業実務専門課程 | 医療事務科 | 夜・通信 | 24 時間 | 7 単位 | |
| | 総合ビジネス科ブライダル・サービスコース | 夜・通信 | 41 単位 | 7 単位 | |
| | 総合ビジネス科事務スペシャリストコース | 夜・通信 | 36 単位 | 7 単位 | |
| （備考） | | | | | |

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

| |
|---|
| https://www.denbi.ac.jp/about/disclosure/ |

３．要件を満たすことが困難である学科

| 学科名 |
|---|
| （困難である理由） |

様式第２号の２－①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

| | |
|---|---|
| 学校名 | 熊本電子ビジネス専門学校 |
| 設置者名 | 学校法人未来創造学園 |

１．理事（役員）名簿の公表方法

| |
|---|
| https://www.denbi.ac.jp/about/disclosure/ |

２．学外者である理事の一覧表

| 常勤・非常勤の別 | 前職又は現職 | 任期 | 担当する職務内容や期待する役割 |
|---|---|---|---|
| 非常勤 | 熊本電子ビジネス専門学校　元校長 | 2025.5.31～※１ | 学内コンプライアンス |
| 非常勤 | 学校法人壺溪塾学園<br>理事長 | 2025.5.31～※１ | 外部監査 |
| 非常勤 | 株式会社アルファ―オート　会長 | 2025.5.31～※１ | 外部監査 |
| （備考）　※１選任後 4 年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結のときまで | | | |

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

| | |
|---|---|
| 学校名 | 熊本電子ビジネス専門学校 |
| 設置者名 | 学校法人未来創造学園 |

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

| |
|---|
| １．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 |
| （授業計画書の作成・公表に係る取組の概要）<br>授業計画書（シラバス）の作成過程<br>・年２回開催する外部委員を含む教育課程編成委員会において次年度以降のカリキュラム等の内容を検討する。<br>・検討されたカリキュラムを元に次年度以降の科目等の見直しと、それに伴う授業内容の検討を各学科に関わる教員により行う。<br>・その後、各学科において科目の担当教員と次年度の授業内容の打合せ行うと伴に、シラバスの作成・提出を依頼する。<br>・提出されたシラバスの記載内容については、不備がないか確認すると伴に教務部長並びに学校長の決裁を経た後、完成とする。<br><br>授業計画書の作成・公表時期<br>・作成時期は、１月から２月末日まで。公開時期は、４月とする。 |
| 授業計画書の公表方法　https://www.denbi.ac.jp/about/disclosure/ |
| ２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 |
| （授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）<br><br>・履修科目の成績は、定期試験、追試験または再試験の試験成績を主とし、平常の学修状況、レポート及び中間試験の成績並びに取得検定状況を加味して各科目担当教員が評価する。<br>・科目ごとの詳細な評価方法、水準及び評価配分は、各科目の授業計画書に示す。<br>・成績の評価は、A（100 点～80 点）、B（79 点～70 点）、C（69 点～60 点）、D（59 点以下）とし、A、B、Cを合格とする。<br>・通年開設科目の学年成績の評価は、原則として前期と後期の両方の成績より行う。 |

| ３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 |
|---|
| （客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）<br><br>・学生の所属する学科の平均成績を示す客観的な指標として GPA を用いる。具体的な算出方法は、<br>GPA = 各科目の(単位数×評価ポイント)の合計÷総単位数（履修登録単位の総数）<br>（評価ポイント　A:3 ポイント　B:2 ポイント　C:1 ポイント　D:0 ポイント）<br>である。<br>・GPA は半期ごとに求め、学生自身の学修状況の理解に役立てる。 |

| | |
|---|---|
| 客観的な指標の<br>算出方法の公表方法 | https://www.denbi.ac.jp/about/disclosure/ |

| ４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 |
|---|
| （卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）<br><br>本校では、三綱領である「進取」「明朗」「誠実」を教育理念の根幹とし教育を行っている。時代を生き抜く「高い専門性」と「豊かな人間力」の修得に向けて、常に先を見通す論理性や人間の機微がわかる感性を養い、総合力に富む真の意味で社会貢献できる人材であるかが卒業認定の基本方針である。<br>上記の基本方針を踏まえて、出席の状況、学修成果の状況、卒業基準検定の取得状況等を総合的に判断し、卒業判定会議にて卒業の認定を行う。 |

| | |
|---|---|
| 卒業の認定に関する<br>方針の公表方法 | https://www.denbi.ac.jp/about/disclosure/ |

様式第２号の４－②【⑷財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の４－①を用いること。

| | |
|---|---|
| 学校名 | 熊本電子ビジネス専門学校 |
| 設置者名 | 学校法人未来創造学園 |

１．財務諸表等

| 財務諸表等 | 公表方法 |
|---|---|
| 貸借対照表 | https://www.denbi.ac.jp/about/disclosure/ |
| 収支計算書又は損益計算書 | https://www.denbi.ac.jp/about/disclosure/ |
| 財産目録 | https://www.denbi.ac.jp/about/disclosure/ |
| 事業報告書 | https://www.denbi.ac.jp/about/disclosure/ |
| 監事による監査報告（書） | https://www.denbi.ac.jp/about/disclosure/ |

２．教育活動に係る情報

①学科等の情報

| 分野 | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 |
|---|---|---|---|---|
| 工業分野 | 工業専門課程 | IT エンジニア科<br>ネットワークエンジニアコース | ○ | － |

| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| ２年 | 昼 | 77 単位 | 15 単位 | 62 単位 | 0 単位 | 0 単位 | 0 単位 |
| | | | 77 単位 | | | | |

| 学生総定員数 | 学生実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 80 人の内数 | 62 人の内数 | 0 人 | 8 人 | 3 人 | 11 人 |

| カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） |
|---|
| （概要）<br>・年２回開催する外部委員を含む教育課程編成委員会において次年度以降のカリキュラム等の内容を検討する。<br>・検討されたカリキュラムを元に次年度以降の科目等の見直しと、それに伴う授業内容の検討を各学科に関わる教員により行う。<br>・また、その際には学校長並びに教務部長等の意見を伺いながら適切な科目や内容であるかの検討も併せて行う。 |
| 成績評価の基準・方法 |
| （概要）<br>・成績の評価は、A（100 点～80 点）、B（79 点～70 点）、C（69 点～60 点）、D（59 点以下）とし、A、B、Cを合格とする。<br>・通年開設科目の学年成績の評価は、原則として前期と後期の両方の成績より行う。 |

| 卒業・進級の認定基準 |
|---|
| （概要）<br>出席の状況、学修成果の状況、卒業基準検定の取得状況等を総合的に判断し、卒業判定会議にて卒業の認定を行う。 |
| 学修支援等 |
| （概要）<br>講義、実習を通じ知識・技能を習得させ確認テストや課題提出を行い、理解が足りない場合は個別の補習授業等を行う。 |

| 卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） | | | |
|---|---|---|---|
| 卒業者数 | 進学者数 | 就職者数<br>（自営業を含む。） | その他 |
| 18 人<br>（100.0%） | 1 人<br>（5.6%） | 17 人<br>（94.4%） | 0 人<br>（0.0%） |
| （主な就職、業界等）<br>主に IT 業界に就職し、システムエンジニア、プログラマ、ネットワークエンジニア、システム管理・運用等の職種に就く。 | | | |
| （就職指導内容）<br>全体に対し模擬面接を 2 回開催し、試験直前にも希望者に対して個人面接を行う。履歴書等の書き方も全体に対して行い、直前に個人指導を行う。 | | | |
| （主な学修成果（資格・検定等））<br>応用情報技術者試験、基本情報技術者試験、J 検、C 言語検定、表計算検定 | | | |
| （備考）（任意記載事項） | | | |

| 中途退学の現状 | | |
|---|---|---|
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 69 人の内数 | 1 人の内数 | 2.4% |
| （中途退学の主な理由）<br>進路変更、ミスマッチ。 | | |
| （中退防止・中退者支援のための取組）<br>説明会で具体的に学習内容を伝える。担任面談並びに保護者を交えた面談等を行う。 | | |

| 分野 | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 |
|---|---|---|---|---|
| 工業分野 | 工業専門課程 | IT エンジニア科<br>スマートフォンアプリコース | ○ | ― |

| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| | | 77 単位 | 15 単位 | 62 単位 | 0 単位 | 0 単位 | 0 単位 |
| 2年 | 昼 | | 77 単位 | | | | |

| 学生総定員数 | 学生実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 80 人の内数 | 62 人の内数 | 0 人 | 8 人 | 3 人 | 11 人 |

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

・年２回開催する外部委員を含む教育課程編成委員会において次年度以降のカリキュラム等の内容を検討する。

・検討されたカリキュラムを元に次年度以降の科目等の見直しと、それに伴う授業内容の検討を各学科に関わる教員により行う。

・また、その際には学校長並びに教務部長等の意見を伺いながら適切な科目や内容であるかの検討も併せて行う。

成績評価の基準・方法

（概要）

・成績の評価は、A（100 点～80 点）、B（79 点～70 点）、C（69 点～60 点）、D（59 点以下）とし、A、B、Cを合格とする。

・通年開設科目の学年成績の評価は、原則として前期と後期の両方の成績より行う。

卒業・進級の認定基準

（概要）

出席の状況、学修成果の状況、卒業基準検定の取得状況等を総合的に判断し、卒業判定会議にて卒業の認定を行う。

学修支援等

（概要）

講義、実習を通じ知識・技能を習得させ確認テストや課題提出を行い、理解が足りない場合は個別の補習授業等を行う。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

| 卒業者数 | 進学者数 | 就職者数（自営業を含む。） | その他 |
|---|---|---|---|
| 18 人<br>（100.0%） | 0 人<br>（0.0%） | 17 人<br>（94.4%） | 1 人<br>（5.6%） |

（主な就職、業界等）

主に IT 業界に就職し、システムエンジニア、プログラマ、ネットワークエンジニア、システム管理・運用等の職種に就く。

（就職指導内容）
全体に対し模擬面接を2回開催し、試験直前にも希望者に対して個人面接を行う。履歴書等の書き方も全体に対して行い、直前に個人指導を行う。

（主な学修成果（資格・検定等））
応用情報技術者試験、基本情報技術者試験、J検、C言語検定、表計算検定

（備考）（任意記載事項）

| 中途退学の現状 | | |
|---|---|---|
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 69人の内数 | 1人の内数 | 1.9% |

（中途退学の主な理由）
進路変更、ミスマッチ。

（中退防止・中退者支援のための取組）
説明会で具体的に学習内容を伝える。担任面談並びに保護者を交えた面談等を行う。

| 分野 | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 |
|---|---|---|---|---|
| 工業分野 | 工業専門課程 | デジタルクリエイター科<br>ゲームプログラマコース | ○ | － |

| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 2年 | 昼 | 76単位 | 15単位 | 61単位 | 0単位 | 0単位 | 0単位 |
| | | | 76単位 | | | | |

| 学生総定員数 | 学生実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 60人の内数 | 14人 | 0人 | 4人 | 2人 | 6人 |

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）
・年2回開催する外部委員を含む教育課程編成委員会において次年度以降のカリキュラム等の内容を検討する。
・検討されたカリキュラムを元に次年度以降の科目等の見直しと、それに伴う授業内容の検討を各学科に関わる教員により行う。
・また、その際には学校長並びに教務部長等の意見を伺いながら適切な科目や内容であるかの検討も併せて行う。

成績評価の基準・方法

（概要）
・成績の評価は、A（100点～80点）、B（79点～70点）、C（69点～60点）、D（59点以下）とし、A、B、Cを合格とする。
・通年開設科目の学年成績の評価は、原則として前期と後期の両方の成績より行う。

| 卒業・進級の認定基準 |
|---|
| （概要）<br>出席の状況、学修成果の状況、卒業基準検定の取得状況等を総合的に判断し、卒業判定会議にて卒業の認定を行う。 |
| 学修支援等 |
| （概要）<br>講義、実習を通じ知識・技能を習得させる。課題の提出により学習を強化させる。 |

| 卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） | | | |
|---|---|---|---|
| 卒業者数 | 進学者数 | 就職者数<br>（自営業を含む。） | その他 |
| 11 人<br>（100.0%） | 0 人<br>（0.0%） | 10 人<br>（90.9%） | 1 人<br>（9.1%） |
| （主な就職、業界等）<br>システム開発、自動車のテストエンジニア、生産管理等。 | | | |
| （就職指導内容）<br>全体に対し模擬面接を 2 回開催し、試験直前にも希望者に対して個人面接を行う。履歴書等の書き方も全体に対して行い、直前に個人指導を行う。 | | | |
| （主な学修成果（資格・検定等））<br>Ｃ言語検定、ＣＧエンジニア検定 | | | |
| （備考）（任意記載事項） | | | |

| 中途退学の現状 | | |
|---|---|---|
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 14 人 | 0 人 | 0.0% |
| （中途退学の主な理由） | | |
| （中退防止・中退者支援のための取組）<br>説明会で具体的に学習内容を伝える。担任面談並びに保護者を交えた面談等を行う。 | | |

| 分野 | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 |
|---|---|---|---|---|
| 工業分野 | 工業専門課程 | デジタルクリエイター科　ＣＧクリエイターコース | ○ | － |

| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| ２年 | 昼 | 74 単位 | 9 単位 | 65 単位 | 0 単位 | 0 単位 | 0 単位 |
| | | | 74 単位 | | | | |

| 学生総定員数 | 学生実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 60 人の内数 | 13 人 | 0 人 | 4 人 | 6 人 | 10 人 |

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

・年２回開催する外部委員を含む教育課程編成委員会において次年度以降のカリキュラム等の内容を検討する。

・検討されたカリキュラムを元に次年度以降の科目等の見直しと、それに伴う授業内容の検討を各学科に関わる教員により行う。

・また、その際には学校長並びに教務部長等の意見を伺いながら適切な科目や内容であるかの検討も併せて行う。

成績評価の基準・方法

（概要）

・成績の評価は、Ａ（100 点～80 点）、Ｂ（79 点～70 点）、Ｃ（69 点～60 点）、Ｄ（59 点以下）とし、Ａ、Ｂ、Ｃを合格とする。

・通年開設科目の学年成績の評価は、原則として前期と後期の両方の成績より行う。

卒業・進級の認定基準

（概要）

出席の状況、学修成果の状況、卒業基準検定の取得状況等を総合的に判断し、卒業判定会議にて卒業の認定を行う。

学修支援等

（概要）

講義、実習を通じ知識・技能を習得させる。課題の提出により学習を強化させる。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

| 卒業者数 | 進学者数 | 就職者数（自営業を含む。） | その他 |
|---|---|---|---|
| 13 人（100.0%） | 0 人（0.0%） | 10 人（76.9%） | 3 人（23.1%） |

（主な就職、業界等）

主にＣＧ制作業界、製造業等の職種に就く。

（就職指導内容）

全体に対し模擬面接を２回開催し、試験直前にも希望者に対して個人面接を行う。履歴書等の書き方も全体に対して行い、直前に個人指導を行う。

| |
|---|
| （主な学修成果（資格・検定等））<br>色彩検定、ＣＧクリエイター検定 |
| （備考）（任意記載事項） |

| 中途退学の現状 | | |
|---|---|---|
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 13 人 | 0 人の内数 | 0.0% |
| （中途退学の主な理由） | | |
| （中退防止・中退者支援のための取組）<br>説明会で具体的に学習内容を伝える。担任面談並びに保護者を交えた面談等を行う。 | | |

| 分野 | | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 |
|---|---|---|---|---|---|
| 工業分野 | | 工業専門課程 | ＩＴビジネス科<br>Ｗｅｂデザイナーコース | ○ | － |

| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| | | 68 単位 | 8 単位 | 60 単位 | 0 単位 | 0 単位 | 0 単位 |
| ２年 | 昼 | | 68 単位 | | | | |

| 学生総定員数 | 学生実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 60 人の内数 | 37 人の内数 | 0 人 | 18 人 | 2 人 | 20 人 |

| カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） |
|---|
| （概要）<br>・年２回開催する外部委員を含む教育課程編成委員会において次年度以降のカリキュラム等の内容を検討する。<br>・検討されたカリキュラムを元に次年度以降の科目等の見直しと、それに伴う授業内容の検討を各学科に関わる教員により行う。<br>・また、その際には学校長並びに教務部長等の意見を伺いながら適切な科目や内容であるかの検討も併せて行う。 |
| 成績評価の基準・方法 |
| （概要）<br>・成績の評価は、A（100 点～80 点）、B（79 点～70 点）、C（69 点～60 点）、D（59 点以下）とし、A、B、Cを合格とする。<br>・通年開設科目の学年成績の評価は、原則として前期と後期の両方の成績より行う。 |

| 卒業・進級の認定基準 |
|---|
| （概要）<br>　出席の状況、学修成果の状況、卒業基準検定の取得状況等を総合的に判断し、卒業判定会議にて卒業の認定を行う。 |
| 学修支援等 |
| （概要）<br>　講義、実習を通じ知識・技能を習得させ確認テストや課題提出を行い、理解が足りない場合は個別の補習授業等を行う。 |

| 卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） | | | |
|---|---|---|---|
| 卒業者数 | 進学者数 | 就職者数<br>（自営業を含む。） | その他 |
| 14 人<br>（100.0%） | 0 人<br>（0.0%） | 9 人<br>（64.3%） | 5 人<br>（35.7%） |
| （主な就職、業界等）<br>主にＷｅｂ業界、ＥＣ業界、メディア、家電販売等の職種に就く。 | | | |
| （就職指導内容）<br>全体に対し模擬面接を 2 回開催し、試験直前にも希望者に対して個人面接を行う。履歴書等の書き方も全体に対して行い、直前に個人指導を行う。 | | | |
| （主な学修成果（資格・検定等））<br>Ｗｅｂデザイナー検定、色彩検定等 | | | |
| （備考）（任意記載事項） | | | |

| 中途退学の現状 | | |
|---|---|---|
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 48 人の内数 | 3 人の内数 | 9.1% |
| （中途退学の主な理由）<br>進路変更、心疾患、ミスマッチ、学習意欲の低下等。 | | |
| （中退防止・中退者支援のための取組）<br>説明会で具体的に学習内容を伝える。担任面談並びに保護者を交えた面談等を行う。 | | |

| 分野 | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 |
|---|---|---|---|---|
| 工業分野 | 工業専門課程 | ＩＴビジネス科<br>ネットショップコース | ○ | － |

| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| ２年 | 昼 | 69 単位 | 8 単位 | 61 単位 | 0 単位 | 0 単位 | 0 単位 |
| | | | 69 単位 | | | | |

| 学生総定員数 | 学生実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 60 人の内数 | 37 人の内数 | 0 人 | 16 人 | 2 人 | 18 人 |

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

・年２回開催する外部委員を含む教育課程編成委員会において次年度以降のカリキュラム等の内容を検討する。

・検討されたカリキュラムを元に次年度以降の科目等の見直しと、それに伴う授業内容の検討を各学科に関わる教員により行う。

・また、その際には学校長並びに教務部長等の意見を伺いながら適切な科目や内容であるかの検討も併せて行う。

成績評価の基準・方法

（概要）

・成績の評価は、A（100 点～80 点）、B（79 点～70 点）、C（69 点～60 点）、D（59 点以下）とし、A、B、Cを合格とする。

・通年開設科目の学年成績の評価は、原則として前期と後期の両方の成績より行う。

卒業・進級の認定基準

（概要）

出席の状況、学修成果の状況、卒業基準検定の取得状況等を総合的に判断し、卒業判定会議にて卒業の認定を行う。

学修支援等

（概要）

講義、実習を通じ知識・技能を習得させる。課題の提出により学習を強化させる。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

| 卒業者数 | 進学者数 | 就職者数（自営業を含む。） | その他 |
|---|---|---|---|
| 11 人<br>（100.0%） | 0 人<br>（0.0%） | 11 人<br>（100.0%） | 0 人<br>（0.0%） |

（主な就職、業界等）

主にＷｅｂ業界、ＥＣ業界、メディア、家電販売等の職種に就く。

（就職指導内容）

全体に対し模擬面接を 2 回開催し、試験直前にも希望者に対して個人面接を行う。履歴書等の書き方も全体に対して行い、直前に個人指導を行う。

| |
|---|
| （主な学修成果（資格・検定等））<br>Ｗｅｂデザイナー検定、色彩検定等 |
| （備考）（任意記載事項） |

| 中途退学の現状 | | |
|---|---|---|
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 48 人の内数 | 3 人の内数 | 12.5% |
| （中途退学の主な理由）<br>進路変更、ミスマッチ。 | | |
| （中退防止・中退者支援のための取組）<br>説明会で具体的に学習内容を伝える。担任面談並びに保護者を交えた面談等を行う。 | | |

| 分野 | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 |
|---|---|---|---|---|
| 商業実務分野 | 商業実務専門課程 | 医療事務科 | ○ | － |

| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| ２年 | 昼 | 76 単位 | 59 単位 | 16 単位 | 1 単位 | 0 単位 | 0 単位 |
| | | | 76 単位 | | | | |

| 学生総定員数 | 学生実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 60 人 | 25 人 | 0 人 | 6 人 | 6 人 | 12 人 |

| カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） |
|---|
| （概要）<br>・年２回開催する外部委員を含む教育課程編成委員会において次年度以降のカリキュラム等の内容を検討する。<br>・検討されたカリキュラムを元に次年度以降の科目等の見直しと、それに伴う授業内容の検討を各学科に関わる教員により行う。<br>・また、その際には学校長並びに教務部長等の意見を伺いながら適切な科目や内容であるかの検討も併せて行う。 |
| 成績評価の基準・方法 |
| （概要）<br>・成績の評価は、A（100 点～80 点）、B（79 点～70 点）、C（69 点～60 点）、D（59 点以下）とし、A、B、Cを合格とする。 |

・通年開設科目の学年成績の評価は、原則として前期と後期の両方の成績より行う。

卒業・進級の認定基準

（概要）
出席の状況、学修成果の状況、卒業基準検定の取得状況等を総合的に判断し、卒業判定会議にて卒業の認定を行う。

学修支援等

（概要）
講義、実習を通じ知識・技能を習得させ確認テストや課題提出を行い、理解が足りない場合は個別の補習授業等を行う。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

| 卒業者数 | 進学者数 | 就職者数（自営業を含む。） | その他 |
|---|---|---|---|
| 15 人（100.0%） | 0 人（0.0%） | 15 人（100.0%） | 0 人（0.0%） |

（主な就職、業界等）
医療業界（医療事務職・秘書・受付等）の職種に就く。

（就職指導内容）
全体に対し模擬面接を 2 回開催し、試験直前にも希望者に対して個人面接を行う。履歴書等の書き方も全体に対して行い、直前に個人指導を行う。

（主な学修成果（資格・検定等））
診療報酬請求事務能力認定試験、医薬品登録販売者、医科医療事務検定、医師事務作業補助者技能審査試験、ホスピタルコンシェルジュ検定、調剤事務検定、ORCA 技能審査試験等

（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状

| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
|---|---|---|
| 26 人 | 1 人 | 3.8% |

（中途退学の主な理由）
進路変更、ミスマッチ。

（中退防止・中退者支援のための取組）
説明会で具体的に学習内容を伝える。担任面談並びに保護者を交えた面談等を行う。

| 分野 | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 |
|---|---|---|---|---|
| 商業実務分野 | 商業実務専門課程 | 総合ビジネス科<br>ブライダル・サービスコース | ○ | － |

| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| ２年 | 昼 | 73単位 | 27単位 | 43単位 | 3単位 | 0単位 | 0単位 |
| | | | 73 単位 | | | | |

| 学生総定員数 | 学生実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 60 人の内数 | 38 人 | 0 人 | 4 人 | 6 人 | 10 人 |

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

・年２回開催する外部委員を含む教育課程編成委員会において次年度以降のカリキュラム等の内容を検討する。

・検討されたカリキュラムを元に次年度以降の科目等の見直しと、それに伴う授業内容の検討を各学科に関わる教員により行う。

・また、その際には学校長並びに教務部長等の意見を伺いながら適切な科目や内容であるかの検討も併せて行う。

成績評価の基準・方法

（概要）

・成績の評価は、A（100 点～80 点）、B（79 点～70 点）、C（69 点～60 点）、D（59 点以下）とし、A、B、Cを合格とする。

・通年開設科目の学年成績の評価は、原則として前期と後期の両方の成績より行う。

卒業・進級の認定基準

（概要）

出席の状況、学修成果の状況、卒業基準検定の取得状況等を総合的に判断し、卒業判定会議にて卒業の認定を行う。

学修支援等

（概要）

講義、実習を通じ知識・技能を習得させ確認テストや課題提出を行い、理解が足りない場合は個別の補習授業等を行う。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

| 卒業者数 | 進学者数 | 就職者数（自営業を含む。） | その他 |
|---|---|---|---|
| 9 人<br>（100.0%） | 0 人<br>（0.0%） | 9 人<br>（100.0%） | 0 人<br>（0.0%） |

（主な就職、業界等）

ブライダル業、販売接客業、医療機関等で、接客・営業・販売・事務の職種に就く。

（就職指導内容）

全体に対し模擬面接を２回開催し、試験直前にも希望者に対して個人面接を行う。履歴書等の書き方も全体に対して行い、直前に個人指導を行う。

| |
|---|
| （主な学修成果（資格・検定等））<br>秘書検定、ビジネス文書検定、桂由美ジュニアライセンス、サービス接遇検定等 |
| （備考）（任意記載事項） |

| 中途退学の現状 | | |
|---|---|---|
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 38 人 | 0 人の内数 | 0.0% |
| （中途退学の主な理由）<br>ミスマッチ、意欲の著しい低下等。 | | |
| （中退防止・中退者支援のための取組）<br>説明会で具体的に学習内容を伝える。担任面談並びに保護者を交えた面談等を行う。 | | |

| 分野 | | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 |
|---|---|---|---|---|---|
| 商業実務分野 | | 商業実務専門課程 | 総合ビジネス科<br>事務スペシャリストコース | ○ | － |

| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| ２年 | 昼 | 73 単位 | 37 単位 | 33 単位 | 3 単位 | 0 単位 | 0 単位 |
| | | | 73 単位 | | | | |

| 学生総定員数 | 学生実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 60 人の内数 | 11 人 | 0 人 | 5 人 | 6 人 | 11 人 |

| カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） |
|---|
| （概要）<br>・年２回開催する外部委員を含む教育課程編成委員会において次年度以降のカリキュラム等の内容を検討する。<br>・検討されたカリキュラムを元に次年度以降の科目等の見直しと、それに伴う授業内容の検討を各学科に関わる教員により行う。<br>・また、その際には学校長並びに教務部長等の意見を伺いながら適切な科目や内容であるかの検討も併せて行う。 |
| 成績評価の基準・方法 |
| （概要）<br>・成績の評価は、A（100 点～80 点）、B（79 点～70 点）、C（69 点～60 点）、D（59 点以下）とし、A、B、Cを合格とする。<br>・通年開設科目の学年成績の評価は、原則として前期と後期の両方の成績より行う。 |

| 卒業・進級の認定基準 |
|---|
| （概要）<br>出席の状況、学修成果の状況、卒業基準検定の取得状況等を総合的に判断し、卒業判定会議にて卒業の認定を行う。 |
| 学修支援等 |
| （概要）<br>講義、実習を通じ知識・技能を習得させ確認テストや課題提出を行い、理解が足りない場合は個別の補習授業等を行う。 |

| 卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） | | | |
|---|---|---|---|
| 卒業者数 | 進学者数 | 就職者数<br>（自営業を含む。） | その他 |
| 9 人<br>（100.0%） | 0 人<br>（0.0%） | 9 人<br>（100.0%） | 0 人<br>（0.0%） |
| （主な就職、業界等）<br>主に販売接客業、一般企業、医療機関等で、接客・営業・販売・事務の職種に就く。 | | | |
| （就職指導内容）<br>全体に対し模擬面接を 2 回開催し、試験直前にも希望者に対して個人面接を行う。履歴書等の書き方も全体に対して行い、直前に個人指導を行う。 | | | |
| （主な学修成果（資格・検定等））<br>秘書検定、ビジネス文書検定、日商簿記検定、全経簿記検定等 | | | |
| （備考）（任意記載事項） | | | |

| 中途退学の現状 | | |
|---|---|---|
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 13 人 | 2 人 | 15.4% |
| （中途退学の主な理由）<br>心疾患の悪化。 | | |
| （中退防止・中退者支援のための取組）<br>説明会で具体的に学習内容を伝える。担任面談並びに保護者を交えた面談等を行う。 | | |

②学校単位の情報

ａ）「学生納付金」等

| 学科名 | 入学金 | 授業料<br>（年間） | その他 | 備考<br>（任意記載事項） |
|---|---|---|---|---|
| ＩＴエンジニア科 | 120,000 円 | 85,0000 円 | 約 200,000 円 | |
| デジタルクリエイター科 | 120,000 円 | 85,0000 円 | 約 200,000 円 | |
| ＩＴビジネス科 | 120,000 円 | 85,0000 円 | 約 200,000 円 | |
| 医療事務科 | 120,000 円 | 750,000 円 | 約 200,000 円 | |
| 総合ビジネス科 | 120,000 円 | 750,000 円 | 約 200,000 円 | |
| 修学支援（任意記載事項） | | | | |
| **特待生制度、社会人等支援制度、奨学生制度、１年次成績優秀者奨励制度** | | | | |

ｂ）学校評価

| 自己点検評価結果の公表方法 |
|---|
| （ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法）<br>https://www.denbi.ac.jp/about/disclosure/ |
| 第三者評価の基本方針（実施方法・体制） |
| 学校関係者評価委員会は、設置されている５学科に関連する企業、保護者、卒業生の７名の委員で構成される。<br>学校関係者評価は職員で実施した自己評価を、学校関係者評価委員それぞれの視点から意見を伺い、お互いの理解を深めるためのものとする。また、その評価の過程において、自己評価の妥当性を検証すると伴に、客観性・透明性等をより高め、公共性の高い社会に寄与する学校を目指すことを基本方針とする。この会で得られた意見については、学内の定例会議や教務会議等で周知を行い、その後の学校運営のための指針として活用する。<br>評価項目は、文部科学省が示す「専修学校における学校評価ガイドライン」に準ずる<br>項目で、学校運営、教育活動、学修成果等である。 |
| 第三者評価の委員 |

| 所属 | 任期 | 種別 |
|---|---|---|
| 日本アルゴリズム株式会社<br>開発部マネージャー | 令和７年４月１日<br>～令和９年３月 31 日 | 企業等委員 |
| 株式会社ｏｍｅｎ<br>代表取締役 | 令和８年４月１日<br>～令和 10 年３月 31 日 | 企業等委員 |
| 合同会社ＡＮＤ<br>社員代表 | 令和７年４月１日<br>～令和９年３月 31 日 | 企業等委員 |
| 株式会社産業開発研究所<br>代表取締役社長 | 令和７年４月１日<br>～令和９年３月 31 日 | 企業等委員 |
| 富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社<br>営業部長 | 令和７年４月１日<br>～令和９年３月 31 日 | 企業等委員 |
| 在校生保護者 | 令和８年４月１日<br>～令和 10 年３月 31 日 | 保護者委員 |
| 有限会社工藤石油<br>店長 | 令和７年４月１日<br>～令和９年３月 31 日 | 卒業生委員 |

| 学校関係者評価結果の公表方法 |
| --- |
| （ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法）<br>https://www.denbi.ac.jp/about/disclosure/ |
| （備考） |
| 第三者評価未実施。 |

c）当該学校に係る情報

| （ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法）<br>https://www.denbi.ac.jp/about/disclosure/ |
| --- |